

アーチに差す日光が水面に反射してハート形に見えることから「恋人の聖地」として知られ、昨年4月の熊本地震で一部が崩落した美里町の石橋「二俣橋」が、復旧工事を終えて通行再開した。

二俣橋は、江戸時代末期に緑川支流の釈迦院川と津留川の合流点に架けられ、長さも幅もほぼ同じのL字形の双子橋。10月2月の正午前の30分間、「二俣渡」と呼ばれる第1橋に差し込む光が川面に映り、第2橋の「二俣福良渡」からハートに見える。

宇城市の三角東港で満月に見入る釣り人たち



「恋人の聖地」が復活

美里町・二俣橋 川面にハート形

地震前にテレビ番組などで取り上げられ、話題を集めていた。町によると、地震で第2橋で側面の石が一部崩落したり、橋全体にゆがみが生じたりした。さらに、昨年6月の豪雨で崩落した石が流失するなどした。町は今年1月から第2橋をいったん解体し、約1億5千万円をかけて石を積み直すなどの復旧工事を進め、11月中旬に完工。工事期間中は第1橋も立ち入りできなかったが、第2橋の通行再開とともに復活した。

(前田淳)

月と日光の競演



復旧工事が完了し、再びハート形が見られるようになった二俣橋

西の空に夕日が沈むと、東の空から大きな月が現れた。3日夕、宇城市三角町の三角東港。水面に映るオレンジ色の月光が一直線の帯となり、釣り人たちの視線を集めた。

日付をまたいだ4日午前0時47分は、2017年で最も大きく見える満月「スーパームーン」。国立天文台によると、地球の周りを公転している月の軌道は楕円を描いており、この日は地球との距離が最も近い満月だった。18年の最大の満月は次回の1月2日になるという。

(池田郷)

海面に映る満月の帯

宇城市・三角東港